

ヘルスプランぎふ21推進会議 議事概要

- 1 日 時 令和5年12月22日（金）13時30分～15時
- 2 方 法 ハイブリット開催（県庁3階303会議室）
- 3 出席者 委員12名、事務局3名

【委員】

	団体名	職名	氏 名	備考
1	岐阜大学	教授	永田 知里	オンライン
2	岐阜県医師会	名誉会長	河合 直樹	会場
3	学識経験者		会田 敬志	欠席
4	朝日大学	教授	友藤 孝明	会場
5	食育推進会議	委員長	道家 晶子	会場
6	地域職域連携推進部会	部会長	上村 博幸	オンライン
7	岐阜聖徳学園大学	教授	小栗 和雄	オンライン
8	岐阜県地域女性団体協議会	副会長	三輪 やよい	欠席
9	岐阜県国民健康保険団体連合会	常務理事	西垣 功朗	会場
10	岐阜労働局労働基準部	労働基準部長	中村 隆	会場
11	岐阜県学校保健会	副会長	村田 明治 代理：池田 勉	会場
12	岐阜県後期高齢者医療広域連合	事務局長	早川 昌克	会場
13	岐阜県市町村保健活動推進協議会	保健師部会長	國井 真美子	欠席
14	岐阜県保健所長会	会長	稲葉 静代	会場
15	岐阜県精神保健福祉センター	所長	奥村 佳子	会場

【事務局】

16	岐阜県健康福祉部	部長	丹藤 昌治	所用により欠席
17	保健医療課長	課長	井上 玲子	
18		係長	山本 敦弘	
19		技術主査	小川 麻里子	

■挨拶（岐阜県健康福祉部保健医療課長 井上玲子）

■協議事項

議事「第4次ヘルスプランぎふ21について」

議事2「第3次ヘルスプランぎふ21の最終評価及び次期計画について」

（1）目標値の設定について

- ・目標値の単位を記載すること。
- ・心疾患の年齢調整死亡率の減少は、男性は女性に比べると切り幅が違う。目標値を過去のトレンドで予測する手法は合理的と思うが、結果的に女性と大きく異なるのはなぜか疑問を招いてしまう印象がある。

- ・過去のトレンドを外挿していくことは、過去の政策効果を織り込んだ形が前提となる。本来政策を進めていくのなら、政策効果を加味して、政策をして達成する観点から、この政策分だけでこれだけ下げるといった表現がよいのではないか。
- ・トレンドは現状と国の努力、県の努力の値を見ており、さらに新しい政策や非常に目立った介入をすれば、これぐらいのインパクトがあると考えられるが、その区別は難しい。政策効果や期待値から目標値として設定することは可能だが、難しい。
- ・死亡数の根拠となる死亡診断書の定義が変われば数値も大きく変化するため、そういった背景からも目標値の設定は難しい。
- ・これまで目標値は、現状値より悪い方向には設定しない傾向があった。これまでの目標は、スローガンの要素が強く、現状値より減少或いは維持ということが多かったが、どんな予測をしても上がっていくことは明らかであり、これまで通り維持または下がるだけでは設定ができない。
- ・国の定める目標値では、高いものを下げるという値も出しているが、県や市町村での設定が難しい内容もある。全て国に倣わなくてもいいと思っている。すごく大きなスローガンですと、実現できるのかと感じる。例えば、がん検診 60%以上という目標値を達成できるのか。国が旗振ってるけど、厳しいという発言も聞かれる。関係者が意見出し、集中するところで決めることでよいかと思っている。
- ・糖尿病であると、政策効果を加味した目標値の考え方となっているが、対応措置があり設定ができる指標だと認識できる。
- ・岐阜県が、脳血管疾患や心疾患は医療の進歩や他の要素は複数絡み合っており、抑制する割合を算出することは難しいが、糖尿病は個人の行動変容を期待して、5%抑制ということ強く打ち出していくという意志を受けとめたい。

(2) 各領域における対策について

【食生活・栄養】

- ・第3次で目標達成していない目標値については、実現に向けて新しいアプローチが必要。
- ・持続可能な食環境づくりを充実させることが必要。

【身体活動・運動】

- ・コロナ禍で子どもも成人も非常に運動時間が減っており、まずは少しでも動いてみようということをスローガンに置き、それが健康づくりの第一歩というメッセージを込めた。少し動いてみようという意識を、もうちょっと歩いてみようかなと、変化していけるとよい。
- ・まずはコロナ前の状態に戻すことが大事であり、到達したい目標値を設定した。
- ・骨粗鬆症やロコモティブシンドロームの認知度は、メタボに比べて低いが、高齢者割合が増える中で、ロコモという言葉の認知度を高めていきたい。
- ・運動することだけでなく、できるだけ通勤・通学で、自動車などを使わず、自転車を使うとか、運動の時間を取りにくい方も多い予測できるため、日常生活の中で身体活動の向上の取組みを促していくことを含められるとよい。

【歯・口腔の健康】

- ・歯科健診を受診する方は多くないため、まず歯科健診を受診し、むし歯や歯周病を知るこ

とが大切。

- ・新しい項目を2つ設定した。1つは、咀嚼良好者の設定。歯を残し、歯茎を整え、しっかり食べる機能面に着目し、口腔の健康から栄養状態につなげていく。もう一つが、歯科健診を支援する環境整備として企業の取組を評価していく。

【休養・こころの健康、アルコール】。

- ・県民の休養不足の状況やストレスを感じているの人の割合は、前回事より悪い状況であると認識でき、第4次計画では対策を強めることが必要。
- ・県民一人一人が、自分の心の健康を、日常の中で意識し、今どういう状態なのかを確認することが第一歩である。また、自分だけじゃなく周りの人にも目を向け、気づけるような環境が大切であるという考えを込めている。

【たばこ】

- ・20歳未満の者の目標値は0%とすることは当然。
- ・喫煙が健康に与える影響への理解は、少しでも現状値より増加させられるとよい。
- ・受動喫煙の機会があった人の減少は非常に大きな問題であるが、家庭及び事業所ともに適切な目標値である。
- ・保健所では受動喫煙防止のない施設を目指し、市役所の敷地内全面禁煙の対策を進めている。一次予防だけではなく、環境を整えていく面でも具体的なアクションを考えていけるとよい。
- ・役所や公的な場所では厳しく取り組みを進めていけるとよい。

【次世代の健康】

- ・学校の体育の授業を除く身体活動として、休み時間などでの運動の確保を進めている。家庭や休日の運動も大事であるが踏み込むことが難しく、学校でできることを充実させていきたい。
- ・成人に達するまでに骨密度は増えるが、それ以降は減っていく一方であり、年をとってからの骨粗鬆症検診やウォーキングも重要であるが、若い頃に骨密度をしっかり蓄えておといった次世代へのメッセージ、知識を定着させる取組みが重要。
- ・学童期の子どもたちの運動場の管理に努めていきたい。

【働き盛り世代の健康】

- ・健康経営というツールの効果的な展開が検討できるとよい。
- ・商工会議所、労働局、協会けんぽなどそれぞれが展開をされているが、従業員の健康維持増進が労働生産性の向上や企業イメージの上昇などにメリットがあるといったことを十分理解し、その状況を測定できることを考えているが、なかなか難しい。健康経営を通じて各自の健康状態を把握し、自分の健康は自分で守るという健康日本21の考え方を職域にしっかりと示し、個人のヘルスリテラシーを向上させ、健康を損なうような食事の配慮、病気の予防、重症化を防ぐことが重要。退職後もしっかりと継続できる環境の醸成など、そういった取組みへの一層の努力が必要。

【高齢者の健康】

- ・これまで75歳以上の方への保健事業は行われていなかったが、令和2年度から高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施が始まり、国保の保健事業や介護保険の地域支援事業

を継続的に取り組む体制となった。令和6年度には、42市町村すべてが取り組む予定となっており、その取組みの中で高齢者の健康に関する目標指標を達成していけるとよい。